

岩 国 民 報

日本共産党
岩国市議団

岩国市山手町
4丁目3-5

電 話
22-2245
F Z X
24-2735

新年度一般予算過去最大の802億円 基地財源への依存高まる

岩国市平成30年度第1回定例議会が、2月22日から3月22日まで開かれました。

この間、各常任委員会が開催され、一般会計802億円（前年度比8・5%増）を審議、予算規模は前年度の続き過去最大を更新しました。

歳入で基地関係の補助金・交付金

金は1338億6563万円（21・6%増）と、歳入の17・3%を占め、額・構成比とも過去最大となり、基地財源への依存度が高まっています。

日本共産党市議団は、高齢者対策などの充実を求めるとともに、基地政策を批判し、予算に反対しました。

日米の「確認事項」を守れ！

山田泰之議員は、米軍再編にかかる諸問題として、「騒音問題」「外来機」、岩国「日米協議会」

確認事項について、人口問題では、「人口減少」特に「若者対策」について質問しました。

福田市長は、施政方針で米軍再編について、「基地機能が変更される際には、その影響により、周辺環境が現状より悪化することになる場合や、十分な安心安全対策が認められない場合は容認できない。問題があれば国や米側に必要な対策を求め、言うべきことは言う」と言っています。



しかし、実際には米軍再編が強行され、軍用機が今までの2倍の120機となり、東アジア最大級の米軍基地へ大きく変わっている状況を指摘。

その中で、岩国市と米軍岩国基地などでの協議事項、基地の運用

マニユアルなど約束が破られていることを示し、岩国市の対応を求めました。

「見直しを検討する」と答弁

市長は、山田議員の指摘に対し、岩国「日米協議会」の確認事項について、「表現も含めてしっかりと米側や中国四国防衛局などと議論をしていく必要がある」と述べ、「見直しを検討する」意向を表明しました。

騒音問題、外来機について

岩国基地周辺では昼夜を問わず騒音をまき散らし、市民生活に悪影響を及ぼすことを指摘し静かな空を求めました。

域外での訓練を行い、住民生活に影響を与えていることを指摘し、

その中止を求めました。

人口減少問題について

岩国市の人口減少は、合併時の平成18年4月1日の151,052人が、平成30年4月1日の133,918人と、中山間地域に限らず市街地でも大変深刻な問題になっています。

市の答弁

自然増減（出生者と死亡者との差）と、社会増減（転入と転出の差）で、いずれも減少傾向にあるとしつつも、子どもの医療費助成制度や、市立小中学校の給食無償化など岩国市の魅力を近隣の子育て世代を中心に積極的に情報を発信し、若い世代に「選ばれるまち」をめざしていくと答弁しました。

岩国「日米協議会」とは

岩国市と山口県、国、米軍岩国基地とで、米軍機の運用ルールなどを話し合う場として1971年に設置され、16項目について確認していますが、1991年を最後に開催されていません。

- (主な確認事項)
- ①、安全上許す限り工場及び市街地の上空を飛行しない
 - ②、北側へ向かっての2機以上の編隊離陸は行わない
 - ③、気象条件などが許す限り南側で離着陸を行う
 - ④、市街地上空の飛行高度は4000フィート（1219m）に変更
 - ⑤、盆の13日から16日は飛ばないようにする
 - ⑥、滑走路の運用時間（6:30~23:00）外の使用の場合は市に通報する
 - ⑦、正月3が日は訓練を行わない

また、就業支援についても、各事業所を訪問し、「新規学校卒業予定者等」の求人確保について文書で要請を行っている」と答弁しました。

基地関係苦情件数

	4~11月	12月	1月	2月	3月	合計
29年度	2161	266	395	339	382	3543
(内・騒音)	1863	217	352	303	342	3077
28年度	1331	164	183	177	216	2071
(内・騒音)	1093	126	150	148	193	1710

大西明子議員は、3月議会の一般質問で、①米軍再編に対する基本的な考え方について、②滑走路の3点を取り上げました。

「FCLPの実施は容認できない」から「NLPの実施は容認できない」に変更

大西明子議員の一般質問

市長は施政方針で、「激しい騒音をもたらすNLPについては岩国基地での実施は容認できない」という基本姿勢を今後も堅持する」と述べました。

しかし、市長はこれまで「空母艦載機の恒常的な着艦訓練施設FCLPの整備場所は岩国飛行場及びその近郷とする」とは、これを文書にて回答を求めた」と言及していま

また、空母艦載機移駐に関わる住民説明会の資料には、「市の基本スタンスについてFCLPの実施は容認で



きない」としています。

大西議員は、「なぜ、基本スタンスをFCLPからNLPに変えたのか」と質問。同時に、「FCLPの実施は容認できない」という市の基本スタンスを米軍は了承しているのか」を尋ねました。

再度市の基本姿勢について問いただすと、「今後、基本方針を表す時はFCLPに統一したい。着艦訓練を容認できないという姿勢を表す時にはFCLPとしたい」と答弁しました。

答弁では、「NLPとFCLPを特に区分けせず使っている。NLPを含むFCLP訓練を認めないとする市の基本方針は何ら変わらない」とし、NLPに変更した理由は何も答えませんでした。

米軍は「FCLPの訓練を認めない市の基本方針を了承しているのか」の質問にも、「要請は米軍に対して

行っているのです、米軍も十分理解していると思う」とはぐらかす答弁でした。

岩国米軍海兵隊飛行訓練マニュアルに、英文ですがFCLPを実施する時の手順に「管制塔から許可を得よ」、「使用の10日前には利用申請せよ」等と具体的に書いてあり、滑走路の南側にFCLPの訓練施設や、強襲揚

FCLPとNLP

陸上基地において滑走路の一部を航空母艦の甲板に見立て行う陸上着艦訓練（FCLP：Field Carrier Landing Practice）。陸上着艦訓練には、昼間に行う昼間着艦訓練（DLP：Day Landing Practice）と夜間に行う夜間着艦訓練（NLP：Night Landing Practice）とがあり、どちらも航空母艦への着艦と同じ手順を踏むが、夜間における着艦技術が特に難しいことから、陸上着艦訓練は主に夜間に行われる。（市の説明より）

岩国基地にFCLP、強襲揚陸艦の訓練所がある

岩国米軍海兵隊飛行訓練マニュアルに、英文ですがFCLPを実施する時の手順に「管制塔から許可を得よ」、「使用の10日前には利用申請せよ」等と具体的に書いてあり、滑走路の南側にFCLPの訓練施設や、強襲揚

陸艦の訓練場所も地図で示しています。このことは岩国基地でFCLPの訓練を実施することがあることを示しています。

だから今回、岩国市がFCLPからNLPに変更したのではないかと重ねて質問しまし

長寿支援タクシイの料金助成制度、改善を検討中

岩国市は、「子育てするなら岩国市で」と学校給食費の無料化や子ども医療費の無料化など様々な施策を展開しています。

しかし、その一方で高齢者が安心して生活できる施策が乏しく、特に「生活を支える交通手段について何とかしてほしい」と切実な声がよせられています。

市の答弁

市は「高齢者の生活を支える移動手段体制

の確保は重要な課題として見直しを図ってきた」と述べ、長寿タクシイ料金助成制度の改善については、「将来にわたり持続可能な公共交通網を構築するために策定する岩国地域公共交通網形成計画をもとに、高齢者にかかる福祉施策における整合性を計りながら、現在、対象距離の緩和、対象年齢、財源の確保、各公共交通機関との調整などについて、具体的な検討をすすめている」と答弁しました。



望寄
要お
ごに
意見
ごを
おき
をせ

大西明子 31-9613

山田泰之 31-9875

坪田恵子 63-6550

小川安士 82-2251